

令和元年6月18日現在

機関番号：13901  
研究種目：基盤研究(B) (一般)  
研究期間：2016～2018  
課題番号：16H03308  
研究課題名(和文) 東南アジアにおけるLGBTの比較政治研究

研究課題名(英文) LGBT Politics in Southeast Asia

## 研究代表者

日下 渉 (KUSAKA, WATARU)

名古屋大学・国際開発研究科・准教授

研究者番号：80536590

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：東南アジアでは、民主体制は必ずしも「LGBT運動」の拡大にも、性的少数者の権利付与にも寄与しない。ここから二つの議論を立てた。まず、諸国家による性的少数者への多様な対応は、いかに支配勢力が「善き国民・市民・家族」の像に関するヘゲモニーを市民社会に行使し、性的少数者を正統性/非正統性の象徴として利用しているかによる。性的少数者は進歩、市場、民主主義の象徴にもなるし、道徳的退廃の象徴にもなるので、支配勢力にとって自らの正統性を強化するのに都合が良い。次に、性的少数者の多様な実践は、彼らが「善き国民・市民・家族」のヘゲモニーに対して、参加、再定義、破壊のいずれで対処しようとしているかによる。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

性的マイノリティをめぐっては、人文学・社会学の領域において、「ゲイ」「レズビアン」「トランスジェンダー」といったアイデンティティの社会的構築と権利獲得運動の歴史に関する研究が熱心に展開されてきた。また、異性愛主義に基づく法制度を批判的に検討する法学研究の蓄積も進んでいる。また事例面では、日本以外では欧米と取り上げるものが多い。これらに対して、本研究は、地域研究の学際的アプローチによって、東南アジア9カ国、日本、台湾の比較研究を通じて、諸国家と市民社会の性的な特性を明らかにする点で新たな学術的意義を持つ。また、アジアにおける多様性と共通点を明らかにすることで、新たな連帯の可能性に貢献しうる。

研究成果の概要(英文)： Considering that democracies have not always supported promotion of sexual minorities' rights in Southeast Asia, we came up with two arguments. First, inconsistent and diverse ways that the states treat sexual minorities can be understood by focusing how dominant forces utilize sexual minorities as a symbol to boost their legitimacy when they exercise hegemony of "good nation, citizens, and families" over civil society. Since sexual minorities can be used as a symbol of either progress, market profits and democracy, or moral decay, they are convenient for dominant forces. Second, diverse practices of sexual minorities for dignity, rights, and livelihoods can be understood from the perspective of how they are trying to address the hegemony of "good citizens, citizens, and families." It ranges from participation, redefinition, and destruction.

研究分野：地域研究、政治学

キーワード：性的マイノリティ 政治 地域研究 政治学 文化人類学 社会学 国家 宗教

### 1. 研究開始当初の背景

2015 年はアメリカ連邦裁判所における同性婚の合法判決や、日本の渋谷区での同性カップル条例制定など、一般に「LGBT」と総称される性的少数者の権利拡大の動きが注目された。東南アジアでは、タイで 2012 年にトランスジェンダー初の地方議員が当選し、インドネシアでトランスジェンダー団体が大統領候補ジョコウィを支持する選挙運動を展開した。2015 年にベトナムで同性婚が事実上容認され、シンガポールでも 2014 年に開かれた性的少数者の集会には 3 万に近い人が集まった。このように、性的少数者に寛容な政治・社会的環境が現れつつある。だが、イスラーム教やカトリック教の影響下で市民社会における宗教的反発も根強い。さらに、マレーシアのように政府がシャリア法の強化、官制キャンペーンを通じて性的少数者への抑圧を強めている国もある。このように、東南アジアでも性的少数者をめぐる 이슈が、市民的自由、政治体制の正統性、民主主義をめぐる新たな政治闘争の領域となっている。この性的少数者の政治化をめぐる闘争の展開は各国ごとに大きく異なるものの、それを促進したり阻害する要因は不明である。

### 2. 研究の目的

近年「LGBT」と総称される性的マイノリティをめぐる 이슈が、アジアでも新たな政治闘争の領域として顕在化し、激しく争われるようになってきている。彼ら/彼女らの権利拡大を求める声が高まるだけでなく、保守的な政治家からもそれを利用しようとする勢力が出てきた。ビジネス業界からは、性的マイノリティの消費する「ピンク・マネー」に期待する流れも生まれた。だが他方で、性的マイノリティに対するバックラッシュも生じており、深刻な人権侵害が相次ぐ地域もある。このように、アジア諸国で性的マイノリティが置かれた権利状況は大きく異なる。だが、興味深いことに、その違いは政治体制、宗教、市民運動の活性度からだけでは説明できない。例えば、タイやベトナムなど、抑圧的な非民主体制で進歩的な政策がとられることがある。また逆に、フィリピンのように、民主的な体制のもとで「LGBT」運動が無視され続けたり、インドネシアのように抑圧されることもある。本研究の目的は、こうした「LGBT」をめぐる多様な政治を、「善き家族・市民・国民」の支配的な定義をめぐる諸アクター間の闘争として読み解き、その動態を東南アジア 9 か国、日本の比較研究を通じて明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

まず地域研究の専門家が、タイ（日向伸介）、フィリピン（日下渉・宮脇聡史）、カンボジア（初鹿野直美）、マレーシア（伊賀司）、インドネシア（岡本正明・北村由美）、シンガポール（田村慶子）、ベトナム（小田なら）、ミャンマー（小島敬裕）に関する事例研究を進めた。同時に、青山薫を中心に、地域から得られた知見をもとに従来の理論を発展させる作業を進めた。井今村真央は、アメリカで学術トレーニングを受けた背景を生かして、欧米とアジアをつなぐ「翻訳」の政治という視点から、グローバル社会とアジアの接続され方を分析した。坂川直也は、映像表象から、地域横断的な分析を進めた。

国内では計 3 回の学会パネルで報告し、そこでの討論を通じて、これらの研究成果の深化に努めた。国際的には、計 4 回の国際会議を開催することによって、国際的に発信すると同時に、各地域の専門家と意見交換を行った。また 2019 年 12 月には台湾で開催される国際学会で、この研究成果の一部を公表する予定である。

### 4. 研究成果

民主体制の下では、性的少数者への権利擁護が進展するとされる。しかし東南アジアの事例に着目すると、民主体制は必ずしも「LGBT 運動」の拡大にも、性的少数者の権利付与にも寄与しない。また逆に、保守的・権威的な体制の下で性的少数者の権利が改善することもある。ここから、本研究では二つの問いを立てて、各国の事例研究と理論研究の相互往復から次の総論を提示した。

第一に、なぜ諸国家は、性的少数者にかくも多様で一貫しない対応をするのか。これに対して、諸国家による性的少数者への多様な対応は、いかに支配勢力が「善き国民・市民・家族」の像に関するヘゲモニーを市民社会に行使し、性的少数者を正統性/非正統性の象徴として利用しているかによる。性的少数者は進歩、市場、民主主義の象徴にもなるし、道徳的退廃の象徴にもなるので、支配勢力にとって自らの正統性を強化するのに都合が良い。

第二に、性的少数者は、国家からの介入や無視に対して、どのように対応しているのか。これに対して、性的少数者の多様な実践は、彼らが「善き国民・市民・家族」のヘゲモニーに対して、参加、再定義、破壊のいずれで対処しようとしているかによるとの議論を立てた。性的少数者の実践には「善き国民・市民・家族」への参加を求めるものから、その像そのものを再定義したり、解体しようとするものまでがある。そのうえで西欧的な「LGBT 運動」に参加しないで、土着の社会秩序のなかで自身の福利を追求する性的少数者も多いことを指摘し、二つの回路の関係性が重要な課題であることを主張した。

これらの総論、それを支える理論研究、そして各国の事例研究を包摂する編著を、研究成果として 2020 年にまず日本で出版する予定である。そして、国際会議で知見を得たオーストラリア国立大学の Peter A. Jackson 氏と共同で、2022 年を目標に英語での編著出版作業を進め

ている。

5 . 主な発表論文等  
( 研究代表者は下線 )

[ 雑誌論文 ] ( 計 6 件 )

- 今村真央. 2019. 「『宗教と近代』と東南アジア研究」、『東南アジア - 歴史と文化』48:71-82
- 宮脇聡史. 2019. 「憑依」( Possession ) の報道 : キリスト教国フィリピンの教会の視点から」  
『言語文化研究』45: 191-210.
- 青山薫. 2019. 「「移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには」、『現代思想』47(5):  
83-91.
- 新ヶ江章友. 2018. 「HIV 陽性者によって「語られなかったこと」- HIV 感染予防をめぐる語  
りの分析から」、『コンタクト・ゾーン = Contact Zone 』6: 143-162.
- 新ヶ江章友. 2018. 「多重スティグマ 依存症・セクシュアリティ・HIV/AIDS」、『臨床心理  
学』増刊 10 : 71-75.
- 新ヶ江章友. 2018. 「文献探訪『男色の日本史 なぜ世界有数の同性愛文化が栄えたのか』」  
『大阪市立大学大学教育』15(2): 91-93.

[ 学会発表 ] ( 計 14 件 )

- Masao Imamura. 2019. “Buddhist Kachin (Jinghpaw) of India: What is the Significance  
of the Exception?” Association of Asian Studies Annual Conference.
- Masao Imamura. 2019. “Traveling of ‘Frontier’: Translation of a Concept-Metaphor.” A  
Space for Translation.
- Shinsuke HINATA. 2018. “Pattaya Entertainment District: A History of Cold War,  
Tourism and Sexual Diversity in Thailand.” Workshop on LGBT Politics in Southeast  
Asia and Japan.
- 日向伸介. 2018. 「パッタヤー歓楽街の形成 タイにおける冷戦・観光・性的多様性をめ  
ぐる一考察」日本タイ学会 .
- 田村慶子. 2018. 「“不自由な”自由? : シンガポールの性的マイノリティ」、『東南アジア学  
会』.
- Keiko Tamura. 2018. “Looking into States and Civil Societies in Taiwan and Singapore  
through the Lens of Sexual Minorities.” International Workshop: Globalization and  
Civil Society in East Asian Space.
- 北村由美 . 2018 . 「インドネシア キリスト教地域における性的マイノリティ」、『東南アジ  
ア学会』
- Yumi Kitamura. 2018. “Sexual Minorities in Christian Context in Contemporary  
Indonesia.” Workshop on Moral Politics of Nationhood: Constructions of Sexual,  
Political, and Religious Others in Contemporary Indonesia.
- 岡本正明. 2018. 「東南アジアにおける性の多様性をめぐる政治 インドネシアを中心に」  
大同生命国際文化基金ミニ・フォーラム
- Okamoto Masaaki. 2018. “Politics of Re-Pathologizing LGBT in Indonesia”. Workshop on  
Moral Politics of Nationhood: Constructions of Sexual, Political, and Religious Others  
in Contemporary Indonesia.
- Satoshi Miyawaki. 2018. “Three Decades of the Post-EDSA Philippine Catholic Church:  
Some Reflections from the list of CBCP Documents.” Philippine Studies Conference in  
Japan.
- Nara Oda. 2018. “Sexual Minority in Vietnam and their ‘Depoliticized’ Social Movement”.  
Workshop on LGBT Politics in Southeast Asia and Japan.
- 日下涉. 2018. 「公共圏の権利と親密圏の悲しみ フィリピンにおける性的マイノリティ  
の生計と承認」、『東南アジア学会』.
- Kaoru Aoyama. 2018. “The Sexual is Political: Utilization of ‘LGBT’ by Nation States,  
the Market and Sexual Minorities”. Workshop on LGBT Politics in Southeast Asia and  
Japan.

[ 図書 ] ( 計 5 件 )

- 田村慶子. 2019. 『家族主義型福祉レジーム』の課題と行方 シンガポールの高齢者介護」  
速水 洋子編 『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』、京都大学出版会、  
65-93 頁。
- 今村真央. 2019. 「キリスト教」、『東南アジア文化事典』、丸善、218-219 頁。
- 宮脇聡史、他 4 名 . 2018 . 『はじめての東南アジア政治』、有斐閣、324 頁。

青山薫 . 2018 . 「セックスワーカーへの暴力をどう防ぐか 各国の法体系と当事者中心のアプローチ」『セックスワーク・スタディーズ』日本評論者、138-159 頁。

Kaoru Aoyama. 2019. Researchers and gatekeepers in participatory action research in Japan's sex industry. In Routledge International Handbook of Sex Industry Research. Routledge. 90-101.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名： John Andrew Evangelista

ローマ字氏名： ジョン・アンドリュー・エバンヘリスタ

所属研究機関名： フィリピン大学ディリマン校

部局名： 社会学部

職名： 講師

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名： Peter A. Jackson

ローマ字氏名： ピーター・ジャクソン

所属研究機関名： オーストラリア国立大学

部局名：

職名： 名誉教授

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。